

軽井沢町の自然環境保全に関する提言書（案）

雄大な浅間山の麓、緑豊かな自然に恵まれた軽井沢は四季折々に美しい姿をみせ、町内外の多くの人々に愛され続けてきた。それによる人流の増加は町に活気をもたらす半面、先人の手によって作り上げられてきたかけがえのない自然環境や歴史的景観、文化遺産の衰退を招いているとの危惧もある。軽井沢町長期振興計画における町民アンケートにおいて住みやすい町、大切にしたい軽井沢のイメージ、次代へ継承していくべきものなど複数の設問で自然環境がトップを占めていることから町民の自然環境への想いの強さが読み取れる。

私たち第4期の風土フォーラム基本会議では「軽井沢ブランドの持続と進化」をテーマに掲げ、軽井沢ブランドとはどのようなものかについての意見交換から始めた。その中でブランドとは憧れであり、歴史や文化、自然といったものの上で成り立っているというような意見が多く出された。しかし文化や自然と言っても住民間では認識や理解に差があるため今期では自然環境に焦点を合わせ、自然環境について理解を深めるためのセミナーや、住民同士で自然環境について語らうことのできるおしゃべり場を開催してきた。

私たち住民はこれまで継承されてきた美しく緑豊かな自然環境や景観を守り育て、後世へと引き継いでいく義務があることから下記の通り提言する。

1. 今後も継続的に軽井沢特有の自然環境・自然史について学ぶ機会、互いに語らう機会を提供し、自然環境について考える人の輪を広げていく必要がある。住民対象の場だけではなく、動物・自然・住民・事業者など様々な立場の代表者が対話する場を設けること。
2. 人口の増加や別荘需要の高まりにより野生の生きものの暮らす場所は減少傾向にある。そのため現在においても生物の多様性が見られる発地エリアに、湿原や草原などのビオトープをつくること。
3. 自然環境を整えるためには人の手を加える必要があるが、手の加え方には配慮する必要がある。住民1人ひとりが実践できる行動を推奨するため、町内のエリアごとに将来像を示し、地域に即した具体的な推奨樹木などが記載された植栽ガイドラインを策定すること。
4. 軽井沢町の自然環境に配慮した取り組みの推進を図り、住民が自然環境に配慮した事業者を自ら選択できる機会を与えるため、環境基本計画や植栽ガイドラインを推奨する事業者に対して町独自の登録制度を設けること。

※赤字は前回からの変更部分です。